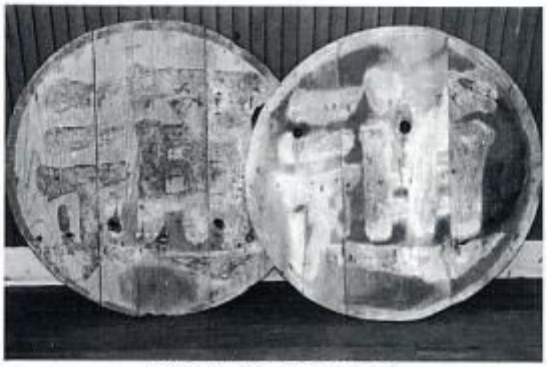
書画、骨董品も購入され、家の善請も行われ土蔵も建ち、畳を敷き天井を張り、床の間も造られるようになりました。お祭りには狂言、地芝居、俳句をして楽しみ、善光寺や伊勢参り、江戸・京大阪見物に行く者も出てきました。下生野の生野蔵屋、上生坂の加藤屋永のような大学者も煙草商人の家から出ました。寺子屋師匠も増えてきました。

煙草荷主連名帳（上・左）

明治10年ごろ生坂には100町歩以上の煙草畑がありましたが、同31年葉煙草専売制となり同38年製造専売制が実施されると煙草商人はなくなり、山中や岩穴で密造する者が各地にいました。しかし専売局の取り締まりが厳しく次第に検挙され刑を受け、耕作者も減少し養蚕が盛んになっていきました。上生坂の中学校の辺には明治31年から大正初年まで専売局出張所があって、大久保から舟で明科へ運びました。

京が倉下の密造穴　刻み道具の一部が残る



大久保の河原の専売所倉庫の看板

# 立地条件を生かした産業

昭和40年代は農業粗生産額の約半分を占めていた養蚕も次第に衰退し、畜産ときのこ・米が主要な農産物で、桑園は他の作物への転換が行われています。

大日向のえのきだけ栽培

新世のしいたけ作り

大日向のしいたけ作り

大日向の干柿

上生坂のとちゅう集荷

白日の花作り

草尾の豆峰出荷　上生坂でも作っており15haの面積になる

## 畜　産

丸山牧場は昭和50年開始されて、60年に閉鎖しました。現在村内には乳牛30頭、肉牛73頭、豚112頭、ウサギ約800匹がいます（平成元年10月）。肉用のサフォークを飼っている所もあります。

大日向の梅園果場

大日向の医療用ウサギ

上生坂の豚

◀日岐の牛舎（上）
牛沢のサフォーク（下）

# 川手農協生坂支所

**沿革**

昭和23年4月　生坂村農業会が生坂村農協として発足
34・5　東広津の農協を合併
37・5　北陸郷の農協を合併
50・4　明科町農協と合併し川手農協生坂支所となる。

**主な仕事**

技術指導（生産振興）　販売、生活生産購買事業
金融事業（貯金、貸付、共済）

**主な農畜産額（昭和63年）**

| | |
|---|---|
| 畜産 | 20,000万円 |
| 茸 | 8,200 |
| 米 | 5,400 |
| 養蚕 | 2,200 |
| 蔬菜 | 2,100 |
| 果実 | 1,100 |
| 巨峰 | 10,000 |

**主要事業実績の推移**　（単位：万円）

| | 昭和36 | 昭和42 | 昭和49 | 昭和63 |
|---|---|---|---|---|
| 販売額 | 6,620 | 2億6,483 | 3億7,770 | 2億9,706 |
| 購買品額 | 2,478 | 8,557 | 1億6,328 | 1億4,825 |
| 貯金額 | 4,058 | 2億0,671 | 5億3,262 | 19億4,192 |
| 貸付金額 | 2,208 | 9,246 | 2億8,975 | 4億2,307 |
| 共済保有額 | 1億2,542 | 3億5,020 | 17億9,478 | 20億7,132 |

川手農協生坂支所

生活センター

農協倉庫の共存同栄のマーク

日岐農協

大日向農協

大日向の加工場（委託）　加工場は上生坂・日岐にもある

# 工　場

過疎地にとって工場誘致は地域振興の大きな課題です。村では地場産業育成などのためにも努力しています。

下生野の電熱産業㈱（昭和47年創業）
水道凍結防止帯・電熱暖房器具などを作る（現在28人）

上生坂の生坂ニチコン㈱（昭和48年創業）
蓄電器のコンデンサーなどを作る（現在42人）

万平の日本電熱生坂分工場（昭和44年飼育所使用
昭和53年新築、名称変更）

水道凍結防止帯、産業ロボットのトランスなどを作る
（現在約25人）

草尾のちくま精機生坂工場　（昭和57年創業）
レジスター部品などを作る（現在17人）

上生坂丸山木工㈱（昭和23年開始）
主な製品　取付けたんす、全国の70%を生産
輸出用鉄鋼梱包材
（現在80人）

会の株式信陽（昭和55年旧北小を利用し創業）　アルミ加工放熱板などを作る（現在10人）

## 自動車工場

山村のため必要にせまられ自動車保有台数も増加し、国道19号沿いには自動車修理・整備工場もできました。

下生坂の東信自動車　事故車の修理や事故処理に協力し松本警察署から感謝状も受ける

下生野の望月自動車工業（整備工場）

下生野の生坂自動車整備工場

# 砂利採取

生坂では犀川の川原の砂利を採る事業が昭和30年代より始まり昭和50年ごろには村中で１日に1000㎥以上とれました。砂利はコンクリートの材料として建設・土木事業の発展と共に需要を増しました。

しかし上流の高瀬川・梓川・犀川にダムが出来るようになると減少し、水流の中より砂利船で採っても不足しています。

現在生坂の業者は下生野に塚原、日岐に山富、雲根に山富、鷺ノ平に橋本建材があり、小舟の双和産業は砂上げを中止し購入によりアスファルト合材を製造しています。

下生野の塚原建材

下生野の砂利船
「いくさか丸」

雲根の砂利船

小舟の双和産業

# 商 工 会

生坂村商会は昭和42年に設立され、地区内の商工業の総合的な改善発展を図るために諸事業を行ってきました。特に青年部が中心になり昭和59年むらおこし事業を創設し、60年から犀竜小太郎祭りを開催、62年に村と合同でむらおこし懇談会、平成元年に観光協会を作り積極的に活動しています。

昭和58年から保育園跡へ移った商工会

５月の犀竜小太郎祭りでの生坂特産品の販売

スポーツパークに桜とつつじを植えている青年部、その他山清路のつつじの手入れも行います。

# 発電所

**昭和電工広津発電所**

| | |
|---|---|
| 昭和14年11月 | 発電 |
| 出力 | 20,000kw |
| 有効落差 | 202m |
| 発電機 | 2台 |
| 水路式 | |
| 水路長さ | 常盤発電 |
| 所より | 11,076m |
| 隧道長 | 9,695m |

**東京電力平ダム**

| | |
|---|---|
| 昭和30年12月 | 起工 |
| 昭和32年11月 | 発電 |
| 出力 | 15,600kw |
| 落差 | 14.1m |
| 発電機 | 1台 |
| ダム 高さ | 20m |
| 貯水量 | 303.3万㎥ |
| 湛水面積 | 58.4万㎡ |
| 重力式 | |

**東京電力生坂ダム**

| | |
|---|---|
| 昭和36年7月 | 起工 |
| 昭和39年8月 | 発電 |
| 出力 | 21,000kw |
| 落差 | 21.4m |
| 発電機 | 1台 |
| ダム 高さ | 19.5m |
| 貯水量 | 311万㎥ |
| 湛水面積 | 59.6万㎡ |
| 重力式 | |

# V. 交通

## 犀川通船

昭和12年犀川線（国道19号）が松本から長野まで全通するまで、物資の輸送は通船に頼っていました。松本―信州新町間の通船願いは元文4年（1739）に始まり、文政5年（1822）まで5回も松本・松代・坂木・幕府等の役所へ出願されましたが、そのたびに善光寺街道の宿場や中馬業者から生活にかかわる大問題だと反対されなかなか実現しませんでした。

松本白板の折井儀右衛門、宮渕の赤穂友蔵、新町の大河内源之永はこれに屈せず、幕府の奉行所へ出願し、宿継ぎ荷物や人間は乗船しない、宿場へ補償金を出す、荷物改め所を設ける、もし違反した時は通船を差し止めることなどを条件にして宿場の代表と江戸で何回も掛け合い、天保3年（1832）8月に最初の出願から93年後漸く松本―信州新町間の通船が開始されました。改め所は一時下生野にも置かれ荷物の検査をしました。大日向や明科の木戸には荷物継所ができ荷物の積み込み積み下ろしをしました。

しかし、時々不正荷や人を乗せていることが見改所で発見されて、通船差し押さえ事件が起き、通船業者と宿場代表はそのたびに江戸で裁判をして荷物の取り決めをしました。

明治時代になると荷物や旅人の制限はなくなり、自由に乗ることができましたが、通船開始時から新町から下には滝があり、川底に岩があって危険でしたので通船せず、久米路橋を渡り峠を越えて稲荷山や篠ノ井へ出ました。新町の船問屋資料によると、入船数は明治17年143艘、同18年110艘、同19年127艘です。

大日向の舟継所牛越常吉、弥満太郎家での明治32年に最も多い下り荷物は刻み煙草や葉煙草で、上りは石油・塩・魚類・肥料・麻などです。

明治35年6月に篠ノ井線が開通すると明科や木戸が発着所になりましたが、同年大日向の下り荷物は肥料・米・石油・菓子・酒・材木・雑貨などで、上りは木炭・石炭・麦・大、小豆・柿・竹・材木などが多く見られます。同年の明科―大日向間の下り荷物運賃は1駄32貫が12～15銭でした。人の船賃は明治25年松本―会が18銭、信州新町までは28銭でした。

大正になると小立野の赤羽清一郎・柴田巳寿司、池沢の藤原和市が通船業を始めています。

所要時間は荷物の少ない時は木戸―山清路2時間、信州新町までは4時間くらい、多い時は約6時間でした。

上り舟は1人が乗り、3～4人で綱を引いて信州新町―明科が2～3日、松本までは4～5日かかりました。山清路のような岩場にはかぎ穴を掘り、全員が乗船しトビ口をかけて引き上げました。

昭和3～4年には飛行艇が運行され、明科―信州新町間を下り2時間、上り3時間の高速でしたが、多数の舟渡しの綱が妨げとなったり、料金も上生坂まで1円と高額だったため利用者も少なく1年間で廃止されました。

江戸時代から130余年間続いた通船も犀川線が全通すると遊覧船となり、生坂ダムができるまで時々就航しました。

大日向の荷物継所

昭和30年ごろの犀川下り

明科から出発する
犀川舟航船

# 犀川舟渡と橋

犀川には古くから舟渡場がたくさんありました。交通の要地でしたから、戦国時代には丸山氏・日岐氏・大日向氏・宇留賀氏などの番兵がいました。江戸時代になると多くは番兵の末裔が舟渡しの仕事をしていました。

約270年前の記録には次の７カ所が載っています。

小立野　下生野　日岐　上生坂　梶本　大日向　笹平

明治・大正のころになるとさらに多くなり、次の場所にありました。

小立野　下生野　日岐　池沢口　小船　上生坂西手　上生坂原　上生坂関屋下　草尾　梶本　大日向　雲根　鷲ノ平２　古坂２　　計16カ所

これらの舟渡しにはどちら側かに番人を置いて管理していましたが、昭和となり橋やダムができて次第に廃止されました。

生坂村内で最初の橋は山清路橋で明治34年です。昭和になってから次のように橋ができました。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 陸橋 | 昭和６年 | 平橋 | 昭和32年 |
| 八丁橋 | 8 | 生坂ダム通路 | 39 |
| 大日向橋 | 13 | 新山路橋 | 41 |
| 昭津橋 | 14 | 御書子橋 | 大正13 |
| 池坂橋 | 19 | | |

これらの橋はその後古くなり交通量も増えたので、次のように新しく架け替えました。

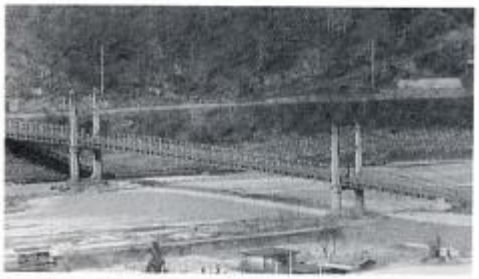
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山清路橋 | 大正９年 | 昭和９年 | 長さ39.4m | 幅5.5m |
| 陸橋 | 昭和39 | | 124 | 6.5 |
| 日野橋 | 39 | | 125 | 3.6 |
| 大日向橋 | 50 | | 90 | 5.7 |
| 生坂橋 | 61 | | 167 | 9.7 |

日岐の渡し　（昭和７年ごろ）昭和８年に八丁橋が架かり廃止

昭和６年の陸橋

昭和８年の八丁橋

明治34年の山清路橋
長さ21間　幅10尺



昭和19年の池坂橋

# 現在の道路交通

村内には、国道19号(14,591m)、県道として上生坂信濃松川停車場線・大町麻績インター戸倉線・下生野明科線・池田宇留賀線(計11,057m)、1級村道(6,346m)、2級村道(2,034m)その他の村道(275km)があります。

これらの道路整備と交通機関の充実が今後の大きな課題です。

池沢トンネル（昭和50年開通）
延長377m　幅9.5m　高さ4.5m

開通近い生坂トンネル（平成元年9月貫通）
延長1,129m　幅10.9m　高さ7.7m

上生坂の横断歩道橋（昭和45年3月架橋）
（下生野は昭和46年12月架橋）

# 村営バス

国道を走るバスは山清路以南を松本電鉄、以北は川中島バスが、山清路—大町間は川中島バス、県道下生野—明科間は松本電鉄が運行していますが、乗客が少ないので次第に回数も減少し、上生坂—池田間は昭和61年廃止となり日常生活が不便になってきました。

村ではスクールバスや村営バスを運行して村民の足を確保しています。

スクールバス
昭和54年4月運転開始

村営バス　昭和63年2月より運転開始、4月からはやまなみ以南も運転、1日3往復

池田町町営バス
平成元年3月より
池田－下生野、上生坂－池田間を運行　1日5回